

特定非営利活動法人

ニッポン・アクティブライフ・クラブ

事務局・大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 〒540-0028
電話06-6941-5448(代表) FAX06-6941-5130ホームページ <http://nalc.jp>

Eメール編集室・kaiho@nalc.jp

隔月
10日発行

従来、会報3月号で「年度事業計画」を掲載し全拠点に提示していましたが、「3月では遅い」との意見が多く寄せられていました。今回は臨時増刊号を発行しますので、拠点の「年度事業計画」に反映してください。拠点の事業運営は厳しくなっていますが、新型コロナウイルスの影響を常態のものとして、いわゆるウィズコロナのスタンスで取り組むことが重要です。2017年会長就任時に会員の皆様に提唱したことは、ナルクの活動を実践するにあたり、ナルクの理念をベースに是非「楽しいナルク」「安心のナルク」「感動のナルク」を常に念頭において頂きたいとお願いしました。「楽しいナルク」はナルクのすべての活動に参加する場合、やはり楽しくないといけません。「安心のナルク」はたとえ一人になってもナルクが支援し、安心して頂き成年後見制度の相談にも対応しているということです。「感動のナルク」は提供活動が、支援される会員や地域の人々に感謝と感動を与え、その感謝の想いが、支援する会員を感動させることだと思います。

2022年度の重点3項目 1. 体制強化 2. 経営基盤の確立 3. 地域との連携強化と社会貢献活動

1. 体制強化

残念ながら昨年も拠点の解散があった。解散に至る経過をみると、様々な要因の中、最大要因は代表・役員の後継者がいないこと、活動する会員がいない等である。現状として代表・役員の後継者が見つからず、解散に追い込まれた拠点が多く現出した。組織の持続的発展には、次代を担う人材の育成、活動会員の発掘が急務であり常日頃の人材育成が大切である。

皆様をお願いしたいことは、まず組織の総点検。そのために代表・役員が全会員との対話を実践して頂きたい。その中で、役員の後継者と活動会員の発掘により拠点の活性化の実現を目指して欲しい。

次に大切なことは人材の育成であり、次期役員育成である。それには次期リーダー養成講座、役員研修会、コーディネーター研修会、日常生活支援活動研修、会員交流会等を是非実施して頂きたい。

役員研修会を実施して成果を上げている実例として、水戸拠点がある。毎年総会終了後、運営委員全員が「運営委員・コーディネーター研修」を

実施し、ブロック別事業計画の“昨年度の反省”と“新年度のブロック事業計画”を策定している。

2. 経営基盤の確立

拠点の経常収益は、コロナ禍において活動の減少と、会員減少により会費収入の減少が続いている。その為拠点が弱体化する傾向にある。ナルクは営利を目的とする団体ではないが、経常収益の減少はナルク活動の縮小につながることになる。

ナルクのように継続して活動するボランティア団体は、組織を維持していくための経費を相当額確保しなければならない。このためベースとなる財源は、活動会員の年会費、賛助会員の賛助会費、時間預託やその他の寄付金である。かつて月100時間の時間預託活動は事務所の確保につながるといわれていた。現在は助成金を獲得している拠点もある。助成金情報の収集と拠点で取り組み可能なものには、積極的に申請してほしい。また、拠点の活動に賛同して頂き賛助会員になって頂くことも拠点運営にとって重要である。

しかし不足する部分は収益事業を実施しなければならない。その内容

は「高齢者介護施設への事業としての支援活動」、市町村が進める「総合事業での住民の日常生活支援活動」などである。これらの活動は拠点や本部の日常活動を支え、運営を維持管理していくために欠かせない収入源となっている。今年度もこれらの事業を前向きに展開していくことが必要である。

本部は元より、拠点において予算管理を徹底し経費節減に努めるとともに、より一層活動を展開することにおいて「入るをはかり、出るを制す」を実行し拠点運営の基盤強化に努めて頂きたい。

例えば、函館拠点は日頃の拠点活動を広く地域社会に訴えることによって、多くの補助金・賛助会費を得ている。

3. 地域との連携強化と社会貢献活動

ナルク創設の原点である社会貢献活動を積極的に推進することが重要である。地域の環境美化活動、福祉施設への支援活動等、地域社会への貢献のための行動を展開する。

その一つとして昨年に引き続き、4月20日を基本として「ナルクデー」

を実施したい。具体的な行動としては、地域の環境美化をメインに拠点単位、エリア単位、または地域の方も巻き込んでの活動としたい。この「ナルクデー」の具体的な活動は拠点だけでなく、エリアやオールナルクで社会に大きくアピールしていきたい。

介護保険の現状並びに将来の財政負担の減少から考えると、総合事業を地域での社会貢献活動とし、拠点活動の重要な役割として取り組んでいくことである。

そのためには拠点において日頃から市町村当局をはじめ、関係諸団体と接触を密にし「情報の把握とそれへの対応」を心掛ける、「拠点全体としての情報の共有」と共に「市町村が示す方策（具体的な実施内容）にナルクとしてどのように対応するか」といった前向きな工夫を考え、実現化して欲しい。

すでに総合事業に取り組み実績を上げている拠点では、市の生活支援事業やサロン事業にナルク固有の活動をセットして実施しているところもある。

つまりナルク単独でなく地域での高齢者の支援のネットワークを地域全体で作ることが重要である。

拠点報告 私たちも頑張っています!

【北海道】 函館拠点

助成事業は地域活動が原点

副代表(兼)事務局長 中村 仁

私がナルク函館の事務局長を担ったのは2012年6月からです。当時の会員159人、財政状況は支出・収入ともに100万円位、収入が保育園の農園管理等の受託金が約50万円と安定、ただ、支出は家賃等の賃借料・通信運搬費・水道光熱費の経常的経費は約60万円と厳しい内情でした。

しかし、会員同士の助け合いと受託事業を時間預託活動として実施し、社会貢献の奉仕活動、月例会・サークル活動などの生きがい活動が活発であることが救いでした。

また、2016年4月には会員から、かなりの広さを持つ不動産をナルク事務所へ廉価で提供する申し出があつて会員活動は一層加速し、活発化へ繋がりました。



助成事業申請には、拠点内部の会員活動が活発でも難しく、地域住民とともに音楽などを楽しみ・語らい・ふれあいや交流ができる地域活動を展開する必要があります。具体的にはコミュニティ・サロンの運営にあたる奉仕活動を始め、ボランティア活動への入り口として、開催するサークル活動や月例会などに「興味ある地域住民」を体験の場として積極的に受け入れ、これらを助成事業申請へ結びました。

助成団体との「信頼関係づくり」には、日頃付き合いのある報道機関へ地域と共同した行事や集い、手作り品の贈呈・新規事業等への取り組みなどをファクスやメールで紹介して取材と報道を依頼しました。また、事務所内外での活動状況を日々写真に記録し、年間活動状況写真を作成し「はまなす会報」とともに蓄えています。2021年6月に公開した「ホームページ」も新たに加えて「ナルク函館活動」の周知を図り、知名度を高めてきました。

これらの布石を基に、申請可能な助成団体を選択し、各種資料を添付して「知ってくれることが有難いこと」と申請を継続しています。最近では助成団体

から「ナルクは、このコロナ禍でもよく頑張って活動している。見えていますよ、ホームページ」と声をかけられています。

あれから事務局長 5 期10年。私は単に助成を求めただけでなく、ナルク函館会員の活発な地域活動を、手元にある、あらゆる資料を駆使して紹介し、現在へ繋げた「ご褒美=助成金」と受止めています。

【群馬】 利根沼田拠点

存亡の危機を乗り越え黒字収支に

副代表 真下 淑恵

1999年にナルク利根沼田は設立されました。長年、代表・事務局長を兼務していた三河さんが2016年に逝去され、存亡の危機を迎えました。ナルク利根沼田を存続できるかどうか会員全員にアンケートをとり、代表・副代表・事務局長等の役を引き受ける人が決まり、事務局を三河さん宅から「ごたく広場（NPO法人利根沼田地域ボランティアセンター）」に移しました。約半数の会員が退会しましたが、繰越金が続く限り頑張ることにしました。

会員同士の交流を図るため、赤城自然園・チャッポミゴケ公園・照葉峡・雨乞山・中之条ガーデン・玉原高原などにハイキングや紅葉狩りに行ったり、リースづくり・ジャムづくり・味噌づくりなどに組み入り、グループホームや小規模多機能ホームなどの福祉施設見学等も行いました。

引継ぎ後1、2年目は時間預託がない月もありましたが、徐々に会員も増え、送迎等の依頼も増えてきました。2018年にリーダー研修に事務局長の三ツ井喜代子さんと参加したことが大きな転機となり、3年目に初めて年度末決算が黒字となりました。今



年度は会計の新行内恭子さんがリーダー研修に参加し、早速会員を増やしてくれました。

事務局のある「ごたく広場」は、色々な団体や個人が交流する場でもあり、ナルクの活動を間近で見て会員になってくれる人もいます。

今はコロナ禍の中、食事会もできず、限られた活動になっていますが、その中でも工夫しながら活動していきたいと思っています。

【大阪】 箕面拠点

地域活動でナルクを活性化

代表 稲井 信也

コロナの影響でナルクの活動の多くは中止せざるを得ない状況でした。

楽しい活動だけでなく、施設でのボランティア活動もゼロとなり、不活発になると退会者も出ると共に、多くの会員から「体力や気分の低下」の声が聞こえて来ました。



そこで室内でのイベントをコロナ感染対策に充分配慮しながら屋外イベントに切り替え、会員の交流や社会貢献活動を従来より増やしました。

- ①屋外健康サロン：百歳体操・血流体操などの室内健康イベントを屋外で実施。
- ②屋外パーク太極拳：屋外で「ナルク・パーク太極拳」として実施。
- ③屋外歌声広場：室内での歌声広場を屋外で実施。
- ④ご近所クリーンウォーク：毎週月曜日、木曜日、金曜日と会員交流を兼ねての清掃ウォークを実施。
- ⑤ラジオ体操&ウォーキング&歌声：毎週火曜日に

公園にて「ラジオ体操・歌声ひろば（3曲を歌う）&ウォーキング」を実施。

- ⑥屋外ミニ交流会：小人数での交流会の実施等。
- 以上の様に思い切って屋外での「健康作りの場」「楽しさの場」「社会貢献の場」を行いました。

今年早々からオミクロン株により第6波に突入り、暫くは引き続き厳しい日は続きそうですが「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」の精神で前だけ向いて考え工夫し、尚考え、今出来る事を積極的に行い、最大限「楽しみ」「感動し」「助け合い」ナルクビジョンの遂行に『ナルクみのおワンチーム』として活動していきたいと思っています。

同時にホームページも外部向けに一新し、少なくとも毎月15本以上はブログで我々の活動を外部に発信していきたいと思っています。